

◎ 春のシンポジウム

4月8日(土)

於:あざれあ

アメリカ労働運動の新潮流とサンダース現象

—最低賃金 15ドル闘争を中心に—

報告:伊藤 大一 氏(大阪経済大学 准教授)

●【現場からの報告】静岡県における最低賃金運動

青池則男氏(静岡県評 労働連 事務局長)

- ・「最低賃金の大幅引き上げを国へ求める意見書」採択運動
- ・「最賃マップ」作成運動
- ・「お時給どんだけ〜」シール投票
- ・「最賃今すぐ1,000円以上へ」署名行動
- ・ディーセントワークデー宣伝行動

●【基調報告】アメリカ労働運動の新潮流とサンダース現象—最低賃金 15ドル闘争を中心に—

伊藤大一 氏(大阪経済大学 准教授)

(1)2016年アメリカ大統領選挙をどうみるか?

- ・オバマも含めた民主党政権への失望
- (2)没落する中間層—所得再分配の失敗
- ・レーガンに始まる新自由主義的経済政策、グローバル資本主義

・新自由主義に対抗するふたつの道

①社会民主主義路線=所得再分配を目的にした経済政策⇒サンダース

②ネオ・ナショナリズム=「没落する恐怖」を背景に、エスタブリッシュメント(体制・権威)への反発を政治動員⇒トランプ

(3)アメリカ労働運動の現状

- ・アメリカ労働運動の長期衰退傾向は変わらず。
- ・ビジネス・ユニオニズムとは、現在、在籍している組合員に対するサービス提供を重視する組合。

(4)アメリカ労働運動の新潮流

・社会運動的労働運動=労働組合の目的を、組織維持でなく、「社会正義の実現」そのための組織拡大を目的とした運動。

・組織化の対象を、従来かえりみられてこなかった、女性、マイノリティ、低賃金労働者などへ拡大。

・そのために、企業だけでなく、NGO、地域コミュ

ニティ、宗教コミュニティとの連帯。

・代表的な運動に「ジャニータに正義を」(LAビル清掃労働者の組織化)、「FF15」(ファストフード労働者最低賃金15ドル運動)などがある。

・主に使う戦術は直接行動主義(disrupt戦術、市民的不服従)。マスコミなどの耳目を集めることが目的。そのための訓練(UCLAレイバーセンター)。

(5)サンダース現象の背後にあるもの

・社会正義を求めるサンダースの選挙運動=①最低賃金15ドルの実現、②公立大学学費無料化、③医療保険改革

(6)FF15をはじめとする運動

・「Fight for \$15」=全米最低賃金15ドルを求める運動。各都市を中心に最低賃金15ドル引き上げ運動が実現しつつある。

・FF15とオキュパイ運動=労働組合活動家、オキュパイの活動家、コミュニティ・オーガナイズング活動家、宗教コミュニティ活動家との連携

(7)労働組合再活性化の条件

①新しいリーダーを生み出す政治的危機

②地方だけでなく中央組合からのサポート

(8)日本の労働運動への視座

・普遍的に正しい『戦略』『目的』はあっても、普遍的に正しい『戦術』『手段』はない。

・『正しい戦術』は社会的、政治的、主体的諸条件の中でしか決定されない。

・ステファニー・ルース「賃金運動は必ずしも貧困への解決策ではなく、労働市場での不安定さの拡大に対する解決策でさえない。より重要なのは、賃金運動を短期間で労働条件を改善するための道具として、あるいは権力をめぐり幅広い闘争において、労働者と支援者を呼び集める方法として理解されるべきである。」

*連絡先:静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

〒422-8062 静岡市駿河区稲川 2-2-1 セキスイハイムビルディング 7F (静岡県評内)

メール roudouadv@wave.wbs.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.jp/shizuokarouken/>